

令和4(2022)年度 事業計画

令和3(2021)年度事業の進捗と課題

①新規事業所開設に向けた取り組み

コロナ禍の影響により工期が延長され開設が2カ月延期、圏域外や県外への普及活動は未実施
新規利用者獲得のため、事業案内の作成、関係機関並びに一般校との関係づくりに着手
外部講師の登用計画と新規プログラムの検討に着手

②役員等改選による組織体制の更なる強化

副理事長に村田輝夫理事が就任。
評議員を10名に増員し、幅広い分野で活躍されている方に就任頂き、組織体制を強化

③利用者の安心と安全

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、BCP計画を3回更新、感染予防依頼文書を6回配布
災害時BCP計画は、法人及び各事業所毎の整備は完了
業務支援ソフト「福祉見聞録」の活用が進み業務効率化に一定の成果があった
コロナ禍のため外部講師の活用は制限し、内部でのプログラム見直しを実施した
給食の内部監査を実施したが、個別支援計画等の監査は一部に留まった

④職員の安心・育成・やりがい

コロナ禍の影響で、ガイドヘルパー養成講座、階層別視察研修は中止
社会福祉士受験対策の支援を行い、●名が国家試験に合格
社労士と共に、働き方改革への対応を検討したが、労働時間の客観的把握方法に課題を残した
職場環境改善委員会が中心となり、職員の意見の吸い上げ、ストレスチェック等を実施した
新卒正規職員は採用に至らず

⑤地域連携と貢献

法人連絡会に積極的に参画し、コロナワクチン職域接種(伊賀市社協主催)に協力した
相談事業は地域支援拠点事業所としての登録を行い、新施設への移転準備を実施した
三重国体中止により共同受注は実現できず、伊賀圏域就労部会でのマルシェ開催に留まった

令和3(2021)年度経営の課題

◆外部環境の変化

感染症対策による急速なICT化等による職場環境の変化への対応
労働環境の向上への対応
社会経済情勢の不安定さへの対応
関係機関、団体の他、異業種も含めた連携強化

◆内部環境の変化

人権擁護を中心とし職員教育の再構築
利用者の契約解除の増(機能低下やニーズの相違、職員支援力の低下等)
多様な障害特性への対応

令和4(2022)年度事業運営方針

①ふっくりあホイスコーレの安定経営

事業理念の確立【『自分の人生を主体的に生きる』ための人材育成の場】
利用者の増員のため、新事業の啓発や勧誘に積極的に取り組む
「人間力を高める」ための独自の支援プログラムを構築する

②職員倫理遵守と「良き支援者」をめざす職員教育の強化

職員倫理と人権擁護についての再教育
キャリアや経験に応じた個別の職員教育の強化
虐待防止委員会活動の見直し

③利用者の安全・安心

利用者一人ひとりの日常の健康管理と食生活、感染症対策に取り組む
事故防止と事故対応マニュアルの見直し
利用者一人ひとりの将来を見据えた支援計画の作成と親亡き後のロードマップ作り

④職員の安心・やりがい

更なる「働き方改革」の推進と、職員それぞれの特長や能力を發揮できる職場環境の構築
福利厚生制度の更なる充実
2024年10月の社会保険適用拡大に向けての準備と中長期的な職員採用計画の作成

⑤地域連携と貢献

地域の各種団体と積極的に連携、協働する。
法人の持つ「ノウハウや強み」を提供し、社会貢献活動に努め、社会に役立ち、頼られる法人をめざす

令和4(2022)年度事業収支計画

単位:千円

令和3年度資金収支予算

収入730,521千円
事業活動収入378,169 福祉事業 308,720 就労事業 69,499
施設整備等 159,002
その他の活動 193,350
支出731,274千円
事業活動支出369,810 福祉事業 300,031 就労事業 69,779
施設整備等 359,585
その他の活動 1,879

収支差△753千円

令和4年度当初資金収支予算

収入430,665千円
事業活動収入 403,809 福祉事業 335,294 就労事業 68,515
施設整備等
支出425,057千円
事業活動支出386,341 福祉事業 317,953 就労事業 68,388
施設整備等 36,686

収支差5,608千円

◆ 考察

新規利用者1名
臨時特例交付金

◆ 投資・修繕事業

ふっくりあ外壁修繕(ソタの処理等)	予算500千円
るーなこむり外階段修繕	予算2,500千円
ひまわり水害対策等修繕、相談室防災カーベットの取替、換気扇取替	予算500千円
GH防災備蓄品	予算200千円

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



社会福祉法人維雅幸育会は、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的に福祉事業に取り組みます。
そして、SDGsについて様々な角度から考え、SDGsが掲げる「誰も置き去りにしない」世界の実現を目指します。

事業推進重点施策

<事業運営方針に基づく重点項目>

①ふっくりあホイスコーレの安定経営

新規利用者増にむけて、定期的に関係機関を訪問し情報共有に務める
支援プログラムの充実のため講師の確保・登用をする

②職員倫理遵守と「良き支援者」をめざす職員教育の強化

外部講師の依頼や内部研修により、福祉の基本、理念を学び、倫理と人権擁護を再理解、実践する
職員個々に合わせた教育プログラムを組み立て実践する(座学とOJTの実践)

③利用者の安全・安心

事故防止と事故マニュアルの見直しと、感染防止、災害対策BCP計画の更新と周知徹底
特別プログラムの外部講師の積極的活用 予算・・・450千円
利用者一人ひとりの家庭も含めた生活の把握と支援の計画
内部監査の充実

④職員の安心・やりがい

ガイドヘルパー養成講座の開催と資格取得支援 予算・・・1,000千円
職員一人ひとりの貢献度や成果を評価により反映できる制度の改正
福利厚生制度の継続 予算・・・300千円
階層別職員研修の充実 予算・・・100千円
SNSを活用した職員採用と在籍職員出身校への訪問 予算・・・100千円

⑤地域連携と協働・貢献

法人連絡会への積極的な参画と、伊賀市内相談支援事業所間の協働体制づくり

<各事業所、部門重点項目>

・上野ひまわり作業所

生介・・・個々のニーズに合わせた活動を再考するため、活動アセスメントを実施すると共に、特別プログラム(音楽療法・アロマテラピー等)の見直しを行う
B型・・・利用者各々の満足度や達成感に繋がるように生産活動全体の見直しを行う
組みひもの商品開発、販売価格、販売方法の見直しを行う

・ふっくりあハウズ

B型・・・個々の適職にマッチした生産活動を提供するため、内働作業の充実、環境整備を行う
社会人としてのルールやマナーを習得するため、ソーシャルスキルトレーニング(SST)に取り組む
移行・・・ホイスコーレへのスムーズな移管に取り組む
定着・・・生活面における課題の把握を行い、家庭・企業・関係機関との連絡調整を行う
(R7年度にホイスコーレに移管予定)

・ふっくりあフウス

生介・・・個々の障がい特性に合わせた運動、生産活動、特別プログラムを組み合わせて、更なる能力開発を行う(運動部門の外部講師招聘等)
生訓・・・精神・発達障がいを対象とし、ホイスコーレ生活訓練との差異化を明確にする

・ふっくりあモオンマール

A型・・・就労に必要な知識や能力の向上のため、研修や資格取得の支援(食品衛生責任者講習等)
労働条件を見直し、個々の障害特性や年齢に配慮した生産活動に取り組む
B型・・・各々が活躍できる活動の場をつくと共に、生活を支えることを目的とする工賃向上に取り組む
安心・安全の商品づくりを目的とし、利用者と共にHACCP運用の充実に取り組む
製菓製パンの商品価格の見直し

・ひいはいぶ

B型・・・施設外就労活動を通じて、経済的自立をめざした生活を支える高い工賃をめざす
社会人として仕事をやる上で必要な技能を養うためにソーシャルスキルトレーニング(SST)に取り組む

・ふっくりあホイスコーレ

・・・人間力を高めるため、「主体的」「対話的」な座学プログラムによる深い学びに取り組む
アセスメントとモニタリングを繰り返し、PDCAサイクルによる人材育成を構築する
自分の「からだ」「こころ」を大切に、自ら健康管理に取り組めるように支援する

・特定相談・・・相談支援センターのホイスコーレへの移転、相談支援専門員(専従)の増員

・GH・・・年齢、障がい特性や基礎疾患に合わせた安心安全な生活を送るための支援と環境整備
感染対策を講じた行事や外出支援、個別ニーズに合わせた余暇支援
食費・共益費の見直し

・事務・・・事務業務の再構築と事務員体制の見直し

・医療ヘルパー・・・高齢化や基礎疾患に配慮した健康管理と病気の予防
看護業務を関係機関に依頼し、連携を図りながら介護等に取り組む

・給食・・・「食べる力」「生きる力」であるという「食育」の実践

感染対策を講じた「共食」を実施し、「食べることの楽しみ」を供与する
HACCP運用の充実に取り組む、給食費の見直し

◆全体事業

6/26 ふっくりあホイスコーレ開設記念式典・第30回ひまわりコンサート 予算1,190千円
新事業開設記念誌発行(25年史を変更) 予算500千円
1/22 新年・成人・還暦のお祝い 予算350千円
保護者会主催ひまわりバザーの共催(実施日未定)

ひまわりコンサート及びひまわりバザーの以降のあり方を検討

◆事業所更新 なし